

## 5. Tokyo2020+1 の医事運営 理学療法サービス

片寄正樹\*1,2

### ●はじめに

アスリートへの物理的治療ケアおよびコンディショニング、運動療法そしてリハビリに関わるサービスは、IOC では Physiotherapy & Physical Therapies Service (PT サービス) として定義され、選手村診療所 (以下ポリクリ) そして全ての競技会場で展開される<sup>1)</sup>。これらの PT サービスはパラリンピックでも同様に提供され、IOC および IPC の指導監督下において必要な設備仕様体制の準備が進められる。Physiotherapy とは理学療法士 (以下 PT) によるメディカルコンディショニングを表し、Physical Therapies は複数形で理学療法士以外の資格者が実施する徒手的・物理的介入によるパフォーマンスを支えるケアとコンディショニング介入の総体を表現している。アスリートに対するケアとコンディショニングに関する有益な学際的知見をホストサービスに有効に活用するという考え方が背景にある。一方で、これらのサービスを提供するスタッフは、その専門領域の高度化を背景として国家資格やグローバルコンセンサスの確保が要求されており、グローバル視点で国内事情も踏まえた調整が必要であった。

### ●ポリクリおよび競技会場における PT サービススタッフ構成

Tokyo2020 大会における PT サービススタッフ構成を表 1 に示す。IOC および IPC との協議の末、Tokyo2020 大会では国家資格を背景として PT、マッサージ師、はり師がそのスタッフとして

認められ、我が国でひろくスポーツ現場で活躍する日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー (以下 JSPO-AT) などは認められなかった。しかし、国内事情を踏まえスポーツ現場をよく理解するこれらのスタッフのアシストが不可欠であるとの認識に立ち、「アスリートケアアシスタント」とした Job Title を認めてもらい、医師の指示において医療資格スタッフのアシストをする者として活躍いただく状況を確保した。

ポリクリでは 236 名、会場ではアスリートケアアシスタントを含む 1242 名のスタッフが全国より参集し、Tokyo2020 大会の PT サービスを支えた。なおスタッフリクルートにおいては、参加アスリートの男女比を考慮して進めてきたが、様々な要因を背景に結果的にポリクリスタッフの男女構成は男性 176 名、女性 60 名であり、女性スタッフの不足が明示される状況となった。大会中、アスリートの要望に応じたタイミングで女性スタッフを確保できないこともあり、サービス提供時間を調整しての対応となるなど今後の国際大会運営において注視すべき状況といえる。

### ●ポリクリ理学療法サービスの体制と構成

PT サービスは医師による処方が必要なく提供可能である国も多く、これらダイレクトアクセスによる PT サービスはグローバルアスリートに広く認識されている。一方で、我が国の国内法では治療的介入としての全ての PT サービスは医師の処方下で実施されることが前提となる。また、PT サービスは我が国では「リハビリ」と通称される現状があるが、グローバルには「physio」と称されるのが一般的である。これらのグローバルコンセ

\*1 札幌医科大学保健医療学部

\*2 Tokyo 2020 Chief Physiotherapist

表 1 ポリクリおよび競技会場における PT サービススタッフ構成

Polyclinic Profession	Olympic	Paralympic	Total
Physiotherapist	130 (97/33)	77 (54/23)	153 (114/39)
Massaeur	73 (55/18)	49 (35/14)	75 (57/18)
Accupuncturist	8 (5/3)	8 (5/3)	8 (5/3)
Total	211 (157/54)	134 (157/54)	236 (176/60)

(male/female)

Venue Profession	Olympic	Paralympic	Total
Physiotherapist	610	258	790
Massaeur	27	1	28
Athlete Care Assistant	303	43	322
Total	940	302	1242



図 1 PT サービスルーム

ンサスとのギャップを踏まえ、Tokyo2020 ではポリクリ内全スタッフとこれらの情報共有をすすめる、整形外科医を PT サービスエリアに常駐する体制を確保し「Physio」への円滑なアクセスとサービス提供体制を準備した。

実際に提供したサービスは、PT による物理療法、徒手療法、運動療法、アイスバス、およびマッサージ師によるマッサージをメインとし、アスリートからの要望によりはり師によるはり治療をオプションとして用意した(図 1)。過去大会で提供されてきたカイロプラクティック、オステオパスは国内法に準じ、アスリートの要望があった場合にこれらをコンセプトにした徒手療法として理学療法士により提供している。

### ●選手村フィットネスセンターとの連携

アスリートのパフォーマンスを支えるケアとコンディショニングにおいては、メディカルケアに加え、運動療法そしてアクティブなコンディショニングエクセサイズが重要となる。本大会では、これらのコンセプトを重要視し、具体的実現を図るためポリクリ PT サービスとフィットネスセンターとの連携を確保した<sup>2)</sup>。パフォーマンスにつながるコンディショニングエクセサイズが有効と思われるケースを、アスリートの了解のもとポリクリ PT とフィットネスセンターコンディショニングサポートメンバーであった JSPO-AT などが積極的に情報共有しながら連携した対応をすすめ好評を得た。

### ●Tokyo2020 のレガシー構築に向けて

Covid-19 感染管理下での PT サービスマネージメントには様々な課題克服が必要であった。しかし、オリンピック、パラリンピックを通してスポーツの価値とマルチカルチャーを背景としたダイバーシティーに向き合わせてくれた。全国から参集した 1478 名の PT サービスにかかわった専門職のサービス提供の姿と実績は、これらの専門性が学術的背景も担保しながら高度化してきていることを痛感させるとともに、専門職連携による様々な可能性も再確認させてくれた。同時に我が

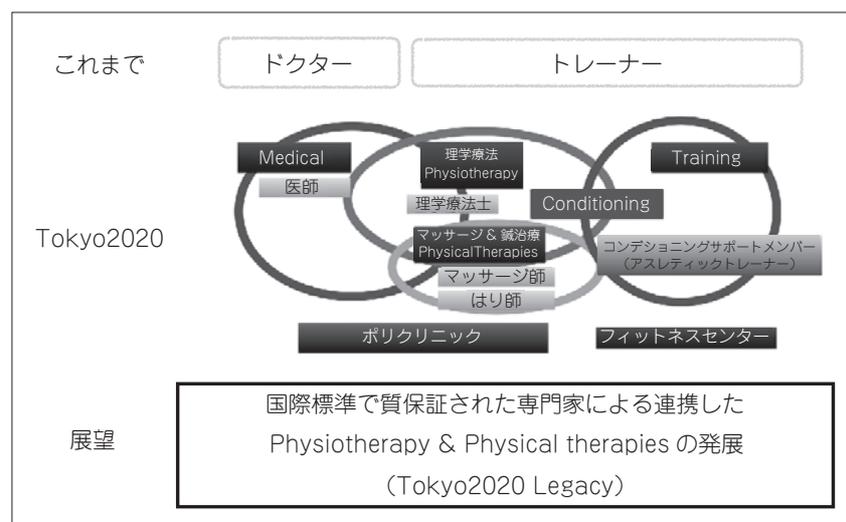


図2 PTサービスの多様性と高度専門化

国における様々な課題も明示してくれたと考える。我が国のこれからの Physiotherapy & Physical Therapies Service の発展につながる Legacy として発展させたいと考えている (図2)。

#### 文 献

- 1) Grant ME, Steffen K, Palmer D. The usage of multi disciplinary physical therapies at the Rio de Ja-

neiro 2016 Olympic Summer Games: an observational study. *Braz J Phys Ther.* 2021; 25(3): 262-270.

- 2) 玉置龍也, 遠山美和子, 片寄正樹. 選手村および競技会場における医療サービス—理学療法サービス・コンデショニングサービスに着目して—. *日本アスレティックトレーニング学会誌.* 2022; 7(2): 175-181.